



「生徒の笑顔があふれる」第47回体育祭を実施しました。大成功の体育祭でした。

5月17日（土）に、第47回太宰府中学校体育祭を実施しました。本年度の体育祭スローガン『「Over the top!」覚醒の一瞬。』にふさわしく、生徒たちはこれまでの体育祭、これまでの自分をこえるために1か月間努力してきた姿を、体育祭当日も見せてくれました。競技や演技はもちろんですが、実行委員としての役割、リーダーとしての役割、係の仕事など、目立たないところでもしっかりと取り組んだ姿はとても素晴らしかったです。「みんな」でつくる体育祭を実現してくれたことをうれしく思いました。



1年生は、中学生として初めての体育祭でしたが、2、3年生の先輩たちの指示をしっかりと聞き、一生懸命についていく姿が印象的でした。2年生は、1年生のお手本となり、3年生を支えていこうという姿が見られました。きっと、来年の体育祭のイメージをもって取り組んでくれたと思います。3年生はさすがでした。1、2年生をしっかりと引っ張り、自分たちの体育祭をつくりました。当日だけでなく、練習期間中も頑張り、太宰府中学校の伝統をしっかりとつないでくれました。さすが太宰府中学校の3年生でした。

体育祭の取組をととして、太宰府中学校が1つになりました。「忘れ物をしない」「時間を守る」「みんなで作る」「自分たちでやる」といった体育祭の取組をこれで終わらせるのではなく、これからの学校生活の中でもいかしてくることを期待しています。



体育祭の実施に当たって、教員の中心となって運営にあたった濱河先生からのメッセージを紹介します。

4月28日（月）の結団式からの約3週間、実行委員や体育祭リーダーを中心に体育祭練習を行ってきました。結団式で言った「どうせやるなら全力で」はできたでしょうか。私が皆さんに口酸っぱく言っていた「あなたたちがつくる体育祭」はどうだったでしょうか。何度も言った訳は、令和7年度の体育祭は一生に一度しかないからです。どの学年でも立場がありますが、その立場があるのは今年だけだからです。だからこそ、自分たちが納得のいく体育祭を自分たちの力でつくってほしいと何度も言っていました。はじめるころに比べると、自分やブロックのために忘れ物を減らしたり、先を見通した声掛けや行動をしたりする姿が増えました。特に、最後の1週間は、ブロック演技を完成させるために、皆で協力して、どうすれば完成するのかを模索し、どの生徒も「目つき・顔つき・行動が変わったな」と感じました。また、体育祭が近づくにつれてリーダーだけではなく、全校生徒が体育祭をつくるために、全力で取り組む姿が見られました。この体育祭を通して、リーダーのみではなく、全校生徒が自分で考え、行動し、集団として成長したと私は思います。この成長を体育祭でとどめることなく、これからも一人ひとりがそれぞれの立場で成長してほしいと思います。

次の学校行事である文化祭では、体育祭以上に集団としての力を発揮してくれることを期待しています。一人ひとりが太宰府中学校の一員であり、力になることを忘れずに、今後の学校生活を送っていきましょう。

当日は、多くのご来賓の方々から、努力する生徒への激励をいただきました。誠にありがとうございました。体育祭当日の運営にご協力いただいたPTA本部役員、生徒のようすを撮影していただいた広報委員の皆様、警備をしていただいた「おやじの会」の皆様、本当にありがとうございました。また、体育祭の練習期間中、ご理解いただいた近隣の皆様にも感謝申し上げます。

3年生にとって最後となる中学校総合体育大会やコンクールがはじまります。



6月2日（月）に部活動選手激励会を実施しました。6月7日（土）の筑紫地区陸上競技大会をスタートに、3年生にとって中学校生活最後となる部活動の大会やコンクールがいよいよ始まります。部活動の目的は、技術を向上させるだけでなく、仲間とともに困難を克服したり、異学年で取り組んだりすることで、集団として行動していく大切さを学ぶことがあります。しかし、3年生にとって最後となる大会やコンクール当日は、勝負にこだわってよいと思います。悔いを残さないように、準備をしっかりとて、全力を出してきてください。